

2020年4月30日

東海旅客鉄道株式会社

2020年3月期 決算説明会 主なQ&A

(今後の資金調達、及び長期債務残高の見通し)

Q. 今後の資金調達に対する考え方、及び長期債務残高の見通しについて教えて欲しい。

A. 3月末時点の手元資金として約7,600億円を保有しており、当面の資金繰りとしては十分な額を確保していると認識しています。今後につきましても、状況を注視しながら適切に対応していきます。長期債務残高の見通しにつきましては、今期の業績予想を公表していないため、具体的な金額の言及は差し控えますが、当面の間は十分な手元資金を確保していることに加え、今後資金調達を行う場合でも、まずは短期の調達から行うことを考えているため、長期債務のポジションを現状から大きく変えることは考えていません。

(月次の利益水準)

Q. 第4四半期のうち、3月単独での利益水準について開示できる数字があれば教えて欲しい。

A. 当社では、月次の決算数値を取りまとめていないため、3月のみを取り出した利益水準について開示できる数値はありません。ご理解のほど、お願いいたします。

(中央新幹線の工事進捗)

Q. 中央新幹線計画について、南アルプストンネル静岡工区の着工の目途を教えて欲しい。また、その他の工区についても一部建設会社では工事を停止しているという報道があるが、工事に遅れが生じていないか状況を教えて欲しい。

A. まず南アルプストンネルの静岡工区について、静岡県との協議が難航しており、実質的に、工事が進捗していない状況です。こうした状況を打開するため、国土交通省も間に入っていただいた有識者会議が昨日発足しました。当社としては、この有識者会議により問題が早期に解決に向かって進むことを期待していますが、いつということについてはまだ明確になっていません。

続いて、工事全体の進捗についてですが、他の工区においてもそれぞれ工期はタイトなもの、各地で工事が進捗しています。また、ご質問いただいたとおり、新型コロナウイルス感染症の防止のために、本日時点で概ね半数の箇所が休工している状況ですが、休工してからまだ1ヶ月も経っていないことに加え、現時点では緊急事態宣言が出されている5月6日までを目途に休工としている箇所が多いことから、これが直接、工事全体の進捗を遅らせるということには繋がらないと認識しています。

(2020年度の費用水準)

Q. 2020年度の費用水準について、2019年度との対比で大きな増減要素はあるか。

A. 2020年度の費用については、現在、新型コロナウイルス感染症の発生を受けて収入がどうなるか分からないため、費用についても見通すことが難しい状況です。個別の費用項目で言えば、例えば修繕費について、2019年度に発生した中央新幹線関連の撤去工事費や技術開発費といった一時的な増加要素は2020年度にはなくなるものと思っておりますが、その他にも様々な増減要素があるため、現時点で2020年度の全体の費用水準を見通すことができません。仮に、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が長期化した場合は、さらなる低コスト化等の対応を柔軟に行うことも考えていきますが、現時点で具体的に申し上げられることはありません。

(グループ会社における新型コロナウイルス感染症への対応)

Q. 新型コロナウイルス感染症の影響を受けている御社の駅ビル事業のテナント等に対して、今後何らかの救済策を行うことを検討しているか。例えば、テナント賃料の減免等について検討しているものがあれば教えて欲しい。

A. グループ会社において、業種によっては新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている会社があります。ご質問のありました駅ビル事業におけるテナント賃料減免等につきましては、政府・地方公共団体等においても様々な検討がなされているため、そうしたことも考慮しながら、今後、テナントの営業が可能な限り成り立つよう、場合によっては当社独自で何らかの方策を行うことも含め対応を検討していきます。

以 上